

報告者名	山口末花子	被調査者生年	1948年(男)
調査者名	山口末花子	被調査者属性	牡鹿地区宮司(N-2話者、N-9・N-10話者②)
補助調査者	なし		

### 牡鹿の被害

震災の被害は、表浜より裏浜のほうがひどかった。新山、泊は金華山が防いでくれたが、その奥の谷川や大谷川、鮫浦等は壊滅的だった。谷川が一番被害がひどく、亡くなった人は20名、表浜の被害はそこまでではないが地形が津波を増幅させた小網倉や小淵浜ではかなり死者も出た。表浜は半島(の裏浜側)が防波堤になったのだろう。

ただし、被害は津波によるもので、地震の被害はあまり出なかった。地盤が固いのではないだろうか？また、牡鹿半島は高低差があるので地震の後高台に逃げた人は助かった。モノをとりてに帰ったり、逃げずに様子を見ていた人が亡くなった。

### 牡鹿の生業

生業も表浜と裏浜で少し異なっている。

表浜は今の時期アナゴ漁が最盛期である。漁自体は6月下旬から10月、人によっては12月くらいまでする人もいる。県内のアナゴ漁獲量の7割くらいがこの表浜のもの。例えば給分浜で45軒、小淵浜で30軒がアナゴ漁に携わっている。仲買人は2人いて、築地や大阪へも出している。

季節的には、表浜では4月はこうご漁、6月は春漁と夏漁の切り替え時期で割と暇があり、6月終わりからアナゴ漁、7月からはイカ釣り、9月から1月2月3月くらいまでは牡蠣漁があり、10月にはさより漁、11月からはアワビがとれる。一方裏浜、特に前網浜などではホヤの種がとれる。これはとても貴重だが、表浜では色が黄色くなって、高く売れない。ほたても裏浜のほうがよく育つ。多分水温が違うのだろう。ただし地撒きをすれば、海底の水温は表浜でも冷たいので、よく育つ。昔鮎川で実験用に撒いたことがあり、その後海底の清掃をしたら、沢山大きなホタテがとれた。またわかめ養殖は表浜が多く、裏浜では鮫浦でむかしやっていたことがある程度。

6月は漁が暇なので、昔はこの時期に金毘羅講にいたりした。

(地元の)給分浜では70世帯のうち漁業に携わっているのは27世帯。ただ、それ以外も捕鯨船や遠洋漁業、貨



写真1 三熊野神社境内



写真2 神事の様子

物船など海関係の仕事をしている人が多い。石巻に勤めている人もいる。浜によっても異なり、大原浜は昔からサラリーマンが多く、そのためにお祭りも10年以上前から7月の第2土曜日曜にやることが決まった。

牡鹿半島では、表浜の小網倉～給分までは、表山漁協を形成して今は宮城県漁連の支部に入っている。ところが十八成、鮎川、新山などは牡鹿漁協を作って県漁連に入っていない。まあそれでも十分な規模を持っていた。ただし捕鯨はこれとは別の組織。

鮎川は他の浜と少し違って昔は他の浜より小さい規模だったくらいなのに、捕鯨が栄えて急に大きくなった。小学校に生徒が300人とか400人とかいた。昔は鯨、とくにマッコウクジラがとれると、一斗缶をもって買いに行った。また、人によっては一斗缶をバイクに括りつけて、半島を回って鯨肉の行商をしていた。

### 大原浜夏祭り：宵祭り

2012年7月14日、15日に大原浜の夏祭りが行われた。大原浜では昨年の夏祭りを復興祭としたが、今年は通常の祭りである。ただし震災前は宵祭りを夕方から行い、神事と獅子舞を奉納し、翌日神事と神輿をしたあとに直会をするというのが基本的なスケジュールだったが、今年はこの他の要素が幾つかみられた。

当日は、まず祭りの前に集落に花飾りが飾られ、参道に提灯が飾られ、神社の社殿にお供えモノと獅子が鎮座し、また境内ではたこやきや焼き鳥などの出店（無料）が店をかまえていた。宵祭りが18時頃始まるのだが、この時、ボランティアを通じて縁を深めてきた静岡の浅間神社の宮司1名、神主2名、巫女4名がゲストとしてきており、一緒に神事を行うことになった。神事自体は牡鹿の宮司と浅間神社の宮司が分担して行い、神主は主に楽器（笛）の演奏、巫女は神事の後に舞を奉納した。神社の社殿には、宮司や神主、巫女のほか、氏子総代（浅間神社の氏子総代長含む）、区長、その他各役職の代表や、ボランティアの代表が場所を与えられている。それ以外の人は参道を除く神社の境内から神事に参加していた。

神事後、お神酒と各家庭で手作りした「しんご餅」がふるまわれた。しんご餅は、あんこ入りの餅で、笹の葉に敷いて重箱に入れて女性たちが持ち寄っており、参加者にふるまわれた。浜の人に聞くと、「しんご餅の餅の部分を作るために、もち米とうるち米を米屋に持って行って粉にしてもらうのだが、そのもちとうるちの割合が各家庭によって違い、それによって味が大きく違う。小豆の味付けも違うが、餅の生地にはとてもこだわりがある。また餡を入れた生地を木型に入れて固めて形をつくるのだが、型の形も各家庭で違い、大きさによって味が違う。この木型を自分の家では津波で流されてしまったのが悔やまれる。大工に頼んでつくってもらいたい。」と話してくれた。さらにそのあとは屋台で調理されたたこやき、焼き鳥、焼き肉や生ビールがふるまわれた。宮司と氏子総代長、行政区長は社殿で飲み食いし、それ以外の人は境内で思い思いに楽しむ。子どもから年配の方まで、女性参加者の4分の1くらいは浴衣を着用していた。また、今年度は出店の運営をボランティアが担当しているといい、出店の数も例年より多いという。ただし材料費などは主に大原浜の人々が負担している。



写真3 獅子舞



写真4 しんご餅を振る舞う